

For

(フォー)



Contents

- 話題の大作
『ギャング・オブ・ニューヨーク』……………2・3
- 2002年12月1日6時55分八戸発『はやて2号』……………4・5
- 生活支援大会……………6・7
- 禁煙の眼……………8
- おすすめの一冊「アルジャーノンに花束を」……………9
- 季節の花「シクラメン」……………9
- 老人性痴呆疾患治療病棟がオープンします……………10
- 創立記念学術研究発表会を開催しました……………10
- 『病院機能第三者評価』の認定取得しました……………11



『ギヤング・オブ・ニューヨーク』

世界を変えようとした、この愛のために。
そして、この復讐が終れば、愛だけに生きると誓う。

19世紀初頭のアメリカ、ニューヨーク。大飢饉に見舞われた故郷を離れ、貧困から逃れてそれぞれのアメリカン・ドリームを実現しようと希望を抱いた何千人ものアイルランド人の移民たちが、毎日港に降り立っていた。しかし、彼らを迎えたのは夢とは程遠い、厳しい現実だった。

貧しい彼らが住める場所は、安アパートや酒場、売春宿が密集し、路上ではギャングたちの殺し合いが日常茶飯事の悪徳と混沌の街ファイブ・ポイントであり、そこでは、“ネイティブ・アメリカンズ”と名乗るアメリカ生まれの住人たちが、やってきた移民たちを、よそ者と呼び、自分たちの土地、仕事、そして祖先たちが苦勞して勝ち取った自由を脅かす侵入者とみなした。

1846年。

“ネイティブ・アメリカンズ”とアイルランド移民たちの組織“デッド・ラビッツ”との戦いは熾烈を極め、ついにファイブ・ポイントの利権を争い、雌雄を決する時を迎えた。

少年アムステルダムは、その戦いのさなか、父親である“デッド・ラビッツ”のリーダー、ヴァロン神父を“ネイティブ・アメリカンズ”のボス、ビル・ザ・ブッチャーに目の前で殺され、自らも少年院に投獄されてしまう。そのアムステルダムを支えたのは、父を殺したビルへの復讐、それだけだった。

16年の時が経ち、アムステルダムは再びファイブ・ポイントの街に帰ってきた。しかし故郷はビルのギャング団が牛耳り、腐敗した政治がはびこる街となっていた。やってきた移民たちに職と食物を与えて、民衆から絶大な人気を誇る政治家ケマニーホールのウィリアム“ボス”トワードは、実はビルと手を結んで裏社会に通じていた。一方“デッド・ラビッツ”は解散、ヴァロン神父の腹心だったマグロインはビルの右腕となり、同じく神父と共に戦ったハッピー・ジャックは、ビルの支配のもとで、若いギャングからあがりさせしめる悪徳警官に成り果てていた。

彼らは誰もアムステルダムの正体に気づけなかったが、ビルに屈せず報酬のためだけに戦うモンクは、一目でアムステルダムが神父の息子だと見抜くのだった。

そういつ中、アムステルダムは幼なじみのジョニーに再会する。ジョニーもまたこの街で生き残るためにビルの手下になっていた。アムステルダムは、神父の復讐を果たす為、素性を隠してビルの組織に入り、ジョニーと行動を共にする。そこでアムステルダムは、ビルが、敵であった亡き父ヴァロン神父に対して深い敬意を抱いているとい意外な事実を知る。ビルから信頼を得るために組織で働くアムステルダム。やがてビルは、度胸があり機転もきくアムステルダムに目をかけはじめる。



ある日、アムステルダムは、ジョニーの憧れの女性、ジェニー・エヴァディーンと出会う。荒廃した街でたくましく生きる彼女は、その美貌で男を惹かせ、高価な品物を盗む女スリだった。

アムステルダムは、その魅惑的な美しさとすさまじいまでの生命力の下に隠された純粋さに惹かれていく。ある夜、オールド・ブリュワリーで若い男女を集めてのダンス・パーティーが開かれる。

ジョニーはダンスの相手にアムステルダムを選ぶ。揺れるキャンドルの灯に囲まれて踊る2人は、互いの瞳を見つめ合い、これこそが運命の恋だと知るのだった。しかし、はじめて唇を重ねた時、アムステルダムはジェニーの首もとを飾るロケットがビルのものであることに気づき、2人の関係を疑うのだった。

今やアムステルダムは、マグロインを押し退けて、ビルの有能な右腕となっていた。ビルを知れば知るほど、アムステルダムの中に憎しみとは別の感情が生まれはじめる。ビルもまた、孤独な心をアムステルダムにだけは打ち明けるのだった。

しかし、戦いの合図は、ある日突然打ち鳴らされた。嫉妬にかられたジョニーがビルに、アムステルダムの正体をばらしてしまっただ。怒りに燃えるビルは、アムステルダムを死の一手手前まで叩きのめす。命までは奪わなかったのは、生きながら裏切り者の汚名をあたえるためだった。

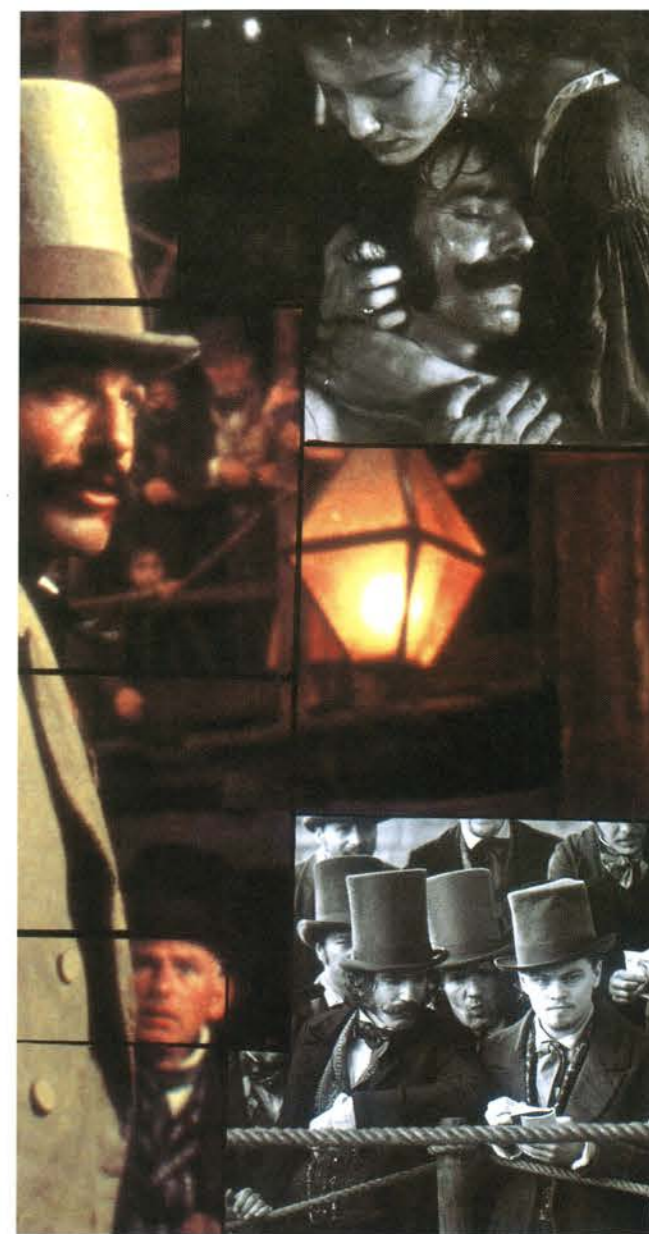
ジェニーの献身的な看護で回復したアムステルダムは、ゴールドラッシュにわき立つ西部、“夢の街カリフォルニア”に逃げようというジェニーの言葉に耳を貸さず、自らの手で“デッド・ラビッツ”を再結成する。

アムステルダムとビルの緊張が続く中、ニューヨークの街もまた、そこに生きる人々の憤怒と争いに燃え上がろうとしていた。

南北戦争が激しさを増したためにアメリカ史上初の徴兵制度がはじまり、それに抗議する人々があちこちで暴動を起こしていたのだ。

ついに“ネイティブ・アメリカンズ”と新生“デッド・ラビッツ”の決闘の日がやってきた。アムステルダムがナイフを取ったその日、ニューヨークの暴動も頂点に達し、とうとう軍隊までが発動された。

今、アムステルダムの、そしてニューヨークで生きる人々の愛も復讐も命さえも、すべて巻き込んで、壮絶な戦いがはじまろうとしていた……。



〈観終えて〉

この映画は観ているうちに次第にその時代に引きずり込まれていく感じである。また、この映画の戦いの迫力感ほまさに決闘そのものである。そして愛と復讐のもたらす人間関係が面白いように展開されている。また、腐敗した政治家、強盗など現代日本社会といつのまにかダブらせてしまっていた自分がそこにいたことにふと気付いた。

小泉首相、安倍官房副長官も正月休みにご覧になったと報道されていたこの映画のために、映画館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

2002年12月1日6時55分

八戸発『はやて2号』

青仁会 本部 本部長 高橋 等



▲2002/12/1 はやて2号、最後尾車にて

その日は、夢見が悪かった、夢の中で何度も同じ夢を見た… 開業する『はやて』に乗ろうと家を出るのだが、いつもは10分かかる駅までの道が、渋滞している夢だ。渋滞の中で心は焦る、が『はやて』出発まで時間が無い、『はやて』の一番列車に乗るとい夢が消えていった。一番列車じゃなきゃ、意味が無い、4月に陸上最長トンネル「岩手沼宮内トンネルウォーク」(29*)に参加、9時から夕方4時20分に二戸駅まで、凡そ6時間かけて歩いた、この時に一番列車に乗ることを決心していた、列車から歩いたトンネルを、しかと確かめてやろうと思っていた。この指定券を買うのにも、みどりの窓口に並んでようやく買ったものなのだ。そういう思いを積み上げてきた、一番列車への思いは消えてしまったのか……ムニヤ、ムニヤ。

目が醒めたのは6時、よかった夢だった。新幹線のような速さで着替え、洗面を済ませる。私も『はやて』に乗りたいという家内と、駅に向かった、駅までは夢で見たような渋滞は無く、スムーズに到着、知り合いの駐車場に車を入れる。駅前には三社大祭の山車がある、しかし見ているひまは無い。

駅東口は、まだ夜も明け切らないのに、人でごった返していた。時間は6時40分、不安がよぎった、そして的中した東西自由通路は人で埋まっていた、改札には長蛇の人々、人を掻き分けないと進めない。夢の渋滞は人だったのか。新幹線改札を抜けて11番ホームへ向かうが、一番列車見送りの人が階段から動かない「すみません、私列車に乗るんでーす」悲鳴ともつかない私の声は、人々の声にかき消された。



▲階段は、見物客で身動きが取れない

『はやて2号』新幹線E2-1000番は、私をちゃんと待っていた。磨かれた外装と、ピカピカの車内で私はようやく、安堵のため息をついた。在来線ホームに、「つがる」が到着した、いよいよ出発だ。待ちに待った20年だ！(新幹線盛岡開業から20年、青森県民は新幹線を待ち続けた)



▲新幹線コンコースは、はやて表示でいっぱい



▲八戸駅上空は、取材のヘリが

殆ど走り出したのが、わからないくらい静かな車内で考えたことは、盛岡での乗換えが無くなった、これからの東京出張は日帰りかな、トンネル多いな…。

盛岡までは29分、しかと確かめるはずの「岩手沼宮内トンネル」も一瞬のうちに通り過ぎた。新幹線開業を、感激してる暇が無かった、盛岡駅にも、上空をヘリコプターが旋回し、八戸からの『はやて』を迎えていた。



▲連絡特急つがる、この中に悲運の人が

■後日談 その1 — NHKニュースにちょっと出る

『はやて2号』から降りた、私達夫婦の目の前に、テレビカメラがあった、あまり気にも留めていなかったのだが、同僚や親戚から「テレビ出てたわよ」と電話が入り、気恥ずかしいやら嬉しいやら、いい記念にはなった。

■後日談 その2 — 大混雑で『はやて』に乗り遅れ 東奥日報記事 2002年12月1日(日)

一日の開業早々、八戸始発の新幹線『はやて2号』に乗り継ごうとした数人が、見物人らによる大混雑のせいで乗り遅れる事態が起きた。指定席を予約し、一番列車を心待ちにしていた鉄道ファンは「混雑するのは想定できたはず」と、JR側の対応に憤慨している。

全国生活支援青森大会

2002.11.6~8

「わたしらしく…」

～全国生活支援青森大会に参加して～

青山荘地域生活支援センター
施設長 大嶋 範子(大会事務局担当)

11月6日(水)～8日(金)の3日間、青森県十和田市の奥入瀬渓流グランドホテルで「全国生活支援青森大会」が開催されました。全国生活支援大会は、全国精神障害者社会復帰施設協会(全精社協)、精神障害者社会復帰促進センター、開催都道府県の社会復帰施設が主催し、全国の精神障害者社会復帰施設、障害を持つ方々、精神保健福祉に関心を持つ方々が一同に集い、精神障害者の地域生活について語り合う大会で、年に1度各都道府県持ちまわりで開催するものです。8回目となる今回の大会のテーマは「わたしらしく…」ときまりました。障害のあるなしに関係なく、わたしらしい生活を考えようというものでした。

大会初日は厚生労働省の方から「精神保健福祉施策の動向」と題した講演をしていただきました。次に「わたしらしく…」をテーマに鼎談を行い、司会は全国精神障害者社会復帰施設協会常任理事の増山明美さん、鼎談者には秋田県横手市の地域生活支援センターのぞみ施設長の沼田由喜子さん、そして私です。背景はとてもよく似ているのですが、活動内容は随分異なります。

お二人のバイタリティあふれるお話に自分が鼎談者であることを忘れて聞き入ってしまいました。その日の夜の交流会では小泊村の権現太鼓で大いに盛り上がり、舞台に大勢の人が上がりねぶたの跳人と化したのは圧巻でした。続く2次会にも予想以上の人が参加し、遅くまで語り合い、交流を深めました。

2日目の午前には活動報告会でした。各地の取り組みをビデオやスライドで紹介し、利用者本人が発表する施設もありました。これは、初めて



の試みであり、実行委員が工夫した企画です。様々の「わたしらしく」報告がされました。午後は7つに分かれての分科会で、3時間半という長時間にわたり、活発な意見交換がされました。

最終日は分科会の報告の後、全精社協の谷中会長の総合コンサルテーションでした。生活支援の大切さをあらためて考え、明日からまた「わたしらしく」活動していく元気の素をいただいたような気がしました。

「全国生活支援大会を青森で」が正式に決まったのは3月の事でした。青森県精神障害者社会復帰施設協会は、経験5年未満を条件に5月に実



▲講演する谷中会長

行委員会を組織しました。不安はたくさんありましたが、彼らは今までにない新しい風で不安を吹き飛ばしてくれました。いっぱいいっぱい6ヶ月だったと思います。しかし、やり遂げて一回り大きくなり、自信に満ちた顔がありました。頼もしい後輩と、参加して下さった全国の皆さんと、素晴らしい紅葉と雪を見せてくれた十和田の自然に感謝しています。

今回の全国生活支援青森大会に参加した220名のうち精神障害者地域生活支援センターの職員が1/3を占めました。精神障害者地域生活支援センターは精神障害者への直接的な援助ばかりではなく、障害のある人もない人も、みんなが安心して生活できる地域作りにも努めています。たとえば、花見や夏祭りなど誰もが参加できる行事による交流や、ボランティア講座などによる啓発活動を行なっています。青森県内には15ヶ所の精神障害者地域生活支援センターがあります。お気軽にのぞいてみてはいかがでしょうか。

	名 称	所在地	電 話
1	青山荘地域生活支援センター	八 戸 市	0178-27-6638
2	ベル・エポック地域生活支援センター	八 戸 市	0178-30-1100
3	地域生活支援センター清里	八 戸 市	0178-25-0055
4	ハートステーション	八 戸 市	0178-43-5717
5	地域生活支援センターアセンドハウス	十 和 田 市	0176-21-1173
6	地域生活支援センター八甲	青 森 市	017-728-8601
7	地域生活支援センターすばる	青 森 市	017-764-2424
8	地域生活支援センターやましろ	青 森 市	017-754-3010
9	地域生活支援センターすみれ	弘 前 市	0172-37-3399
10	つがる野工房地域生活支援センター	弘 前 市	0172-37-5815
11	地域生活支援センターつぐみ	弘 前 市	0172-99-1155
12	地域生活支援センターラ・プリマベラ	五所川原市	0173-38-1331
13	地域生活支援センター翔	鶴 田 町	0173-23-1030
14	大石の里	岩 木 町	0172-93-2110
15	地域生活支援センターびあす	弘 前 市	0172-31-2731



禁煙の眼

まなこ

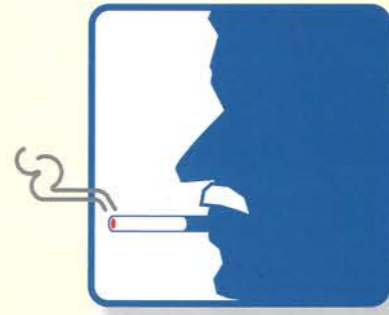
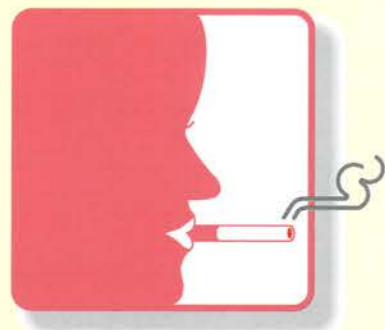
元喫煙者

最近、公共施設、交通機関等の禁煙、分煙は進んできました。とはいうものの、街頭での歩きながらの喫煙は相変わらず目立ちます。

しかし、そんな歩きタバコを好ましく思っていない非喫煙者等にとってひとつの朗報が持たされました。それは、新聞、テレビ等の報道で既にご存知の、東京都千代田区「路上禁煙条例」です。全国で初めての罰金付きで路上喫煙を禁止する条例で、平成14年11月1日からスタートしています。



日本有数のオフィス街を抱える千代田区が8ヶ所の指定地区での路上喫煙に行政罰を科すことを定め、条例の罰則は過料2万円以下であるが、当面は違反者から2000円を徴収するというものです。歩きながら吸うということは、吸い終わればポイと捨てるという可能性が大きく、他の先進国では考えられないマナーの悪さを示しています。



「喫煙は人格を現す」と言われます。非喫煙者の前での喫煙、吸殻のポイ捨て、禁煙場所での喫煙など、非喫煙者から見れば人格を疑うような場面そのものです。喫煙そのものは本人の趣味嗜好問題です。だから愛煙家であればこそ、子どもや非喫煙者に対する配慮と思いやりが必要なのではないでしょうか。

日本は喫煙に対する意識や対策が、欧米に比べて30年近く遅れていると言われていています。欧米人が来日して先ず疑問に思うことは、「病院の中でタバコを吸えること」、「医療従事者がタバコを吸っていること」だと言われます。

そんな中で、日本医師会や日本看護協会が医療従事者の立場から、禁煙キャンペーンを始めた事は遅れながらも非常に意味のあることだと受け止めています。特に、この職種に喫煙者が多いといわれている日本看護協会は、看護師の禁煙啓蒙に苦労しているようです。医療従事者が、自分ばかりではなく、周りの非喫煙者にも悪影響を及ぼす「喫煙」を自ら行っていることに対して、医療機関を利用される方が疑念を抱かれるのではないかと危惧しています。

禁煙はちょっとした思いやりと勇気です。



おススメの一冊

「アルジャーノンに花束を」



ダニエル・キイス(著)
小尾 芙佐(著)
価格:¥1,500

【内容紹介】

IQ68~超天才に変わったチャーリーの運命は？涙が止まらない感動の傑作SF。

チャーリーは陽気な32歳。生まれながらの知的障害者。昼はパン屋で働き夜は、夜学に通う。そんな彼に「頭をよくしてあげよう」と科学者からの突然の申し出がある。

未知の、危険な実験の被害者になる。しかし、チャーリーは喜んで手術のため入院する。同じ実験を、白ネズミのアルジャーノンも受けていた。やがてIQが185にまで高まり、超天才となったチャーリーは自我が強まり、意識欲も旺盛になり、人々を驚かす。だが、驚くべき天才ネズミとなったアルジャーノンは、急速に知能が退化していく。はたして、チャーリーは？

SFの傑作であるとともに、読者を深い感動に包み込む不朽の長編小説。

【感想】

この作品を通して、「私にとって幸せとは何か？」という事を改めて考えさせられた気がします。中でも、人が自分自身の評価をする時、他人と自分を比較してもそれは意味を持たないということを教えられました。だったら何と比べるのか、それは、「昨日より今日、今日より明日に自分がどうなっているのか...」を基準にするほかないのだ...と思います。人の心は奥深く際限なく厄介なもの、でもそれだけに、そこに蓄えられているエネルギーの大きさは途方もなくそれがよい方面に向かって力を発揮した時、私達は自分が思っている何倍もの事を成し遂げられる素晴らしい存在なのだと思います。

花ことば

“花”という言葉からは、誰でも“美しさ”というものを考えるのではないのでしょうか。同時にどことなくロマンチックな香りも感じられます。

花ことばは、そんな花の美しさが、ギリシャ神話やローマ神話、あるいは故事などと結びついて生まれました。

シクラメン <花期 冬~早春> 花ことば……はにかみ

小椋佳の作詞・作曲、布施明が歌って大ヒットした「シクラメンのかほり」を覚えている人は多いでしょう。花の数の少ない秋から冬にかけて濃赤色、淡紅色、白色などさまざまな鉢植えが花屋さんの店先を賑わすのがシクラメンです。

ハート型をした葉と、その上に突き出るように群がって咲く花の形から、「かがりびバナ」という和名もつけられています。

原産はアジア西南部、地中海沿岸地方なのですが、寒さにも強いのが特色となっています。現地では野豚が好んでその球根を食べるため、「豚のパン」と呼ばれていましたが、それが日本に入ってきて「ブタノマンジュウ」という別名にもなっています。室内を飾る鉢植えの代表格として人気も高いのですが、最近では紅白の鉢植えをペアにして、お歳暮の贈答品などにも使われています。

花は上を向いているように見えますが、花自体は下向きで花びらが反り返っているため上を向いているように見えるのです。花ことばの「はにかみ」は、このようにその花の咲く姿が下を向いているところからつけられたものと言われています。

室内を飾るのにこの上ない鉢植えですが、病気見舞いに贈る時は注意が必要です。「シクラメン」の「シ」と「ク」がそれぞれ「死」と「苦」に通ずるとして、縁起が悪いという人もいるからです。



痴呆性疾患治療病棟がオープンします

寿命がどんどんと延びて、気が付けば日本は世界有数の長寿国になっています。生まれる子供が少なくなると、お年寄りが長生きする少子高齢化社会。2025年まで高齢化社会は膨らんでいくと推計されています。寿命が長くなって問題になってきたのが「痴呆」です。身体より脳が早く加齢してしまい、様々な痴呆症状を呈する病気です。痴呆の介護は、「その痴呆者なりの世界を大切に付き合っあげること」と、ひとくちに言われますが実情は大変です。以前は、グループホームや老人保健施設などの、痴呆になった高齢者の面倒をみてもらえるような施設はありませんでした。どうしても困ると精神病院に入院させるしかなかったのです。精神病院では専門の病棟は無く、他の精神疾患の患者さんと一緒に介護するだけでした。現在は軽度の痴呆状態であれば対応してくれる施設などが多くあります。自宅でも上手く対応されている家族もあります。良い時代になりました。

しかし、痴呆の進行の過程には、どんなに対応が上手でも、激しい痴呆症状(興奮・抵抗・叫び・徘徊・不眠など)をあらわして、周りが困りきってしまう時期があります。

施設でも他の方に迷惑がかかるなど、面倒が見れないようになると帰されてしまいます。こういった時期には、薬物療法などの専門的な治療が必要ですし、ある程度時間が経てば少しずつ穏やかさを取り戻すようになります。その専門的な治療を行うのが、痴呆性疾患治療病棟です。痴呆の方々の特性に合わせて工夫された施設で、適切な治療と専門的なケアを受けながら、激しい痴呆症状がおさまるまで過ごすことができます。これまでの精神病棟での介護ではなく、当地域では初の、痴呆の方々だけの専門の病棟です。スペースも広くゆったりとしていますし、時間もゆっくりと流れていきます。

「たとえ痴呆になられたとしても、早く笑顔で毎日を過ごしていただけるように」…スタッフはそんな思いでケアさせていただきます。

痴呆性疾患治療病棟は5月にオープン予定です。
【お問い合わせは27-2016青南病院ソーシャルワーカー室まで。】



創立記念学術研究発表会を開催しました

11月3日は医療法人青仁会の創立記念日になっております。毎年この日は法人内の各部門各部署から日頃の研究成果を発表する学会が催されます。医療・保健・福祉の領域で仕事をさせていただいている従事者にとって必要なことのひとつは、常に自分を磨き続けることです。自分たちの仕事の現場の中に、新しい発見や教材が沢山あります。それらの中にテーマを絞って学習し研究して、その成果を他の方々に発表し知識を広めて、

切磋琢磨しあうのが、この学会の目的です。今年は時間の関係で演題を絞り込みましたが、全部署から26題の発表があり、たいへん盛会でした。学会記念講演は、特別擁護老人ホーム「和幸園」理事長の西岡俊子様をお招きし、「高齢者の医療・保健・福祉を考える」をテーマに、長年のご経験と高い見識から、特に高齢者福祉についてのお考えやケアのあり方などについて、貴重なお話をいただきました。この日は法人職員一同にとって、知的な意欲を掻き立てる一日でした。

この学術研究発表会は地域に公開されておりますので、ご興味のある方はご参加いただけます。

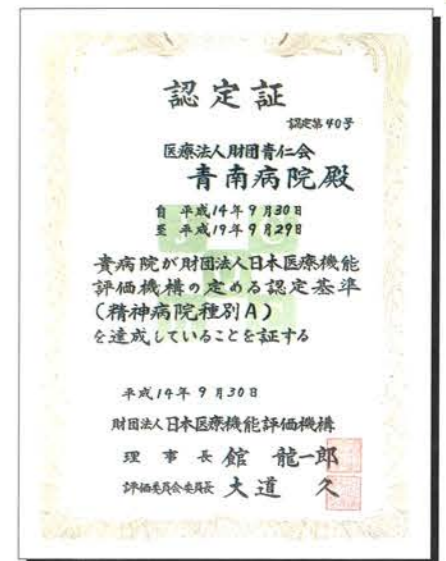


青南病院が

『病院機能第三者評価』の認定取得しました

この度、青南病院は平成14年9月30日付けで、財団法人日本医療機能評価機構から病院機能第三者評価に基づく評価調査の結果、医療機能認定病院(精神病院種別A)としての認定を取得いたしました。

平成14年7月19日に日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、その受審結果の通知が10月にありました。地域が必要とする良質な精神科医療と適切な看護を提供し、患者様に安心と満足を与える病院として地域医



療に貢献していることを評価していただいたものと考えています。

この病院機能評価事業は1997年から始まり、これまで(2002年11月18日現在)に全国で797病院に5年間有効の認定証が発行されています。青森県内において、青南病院は8番目の認定病院となり、また、精神病院では青森県内ではじめての認定病院となります。

この認定取得を機に、より一層病院を取り巻く諸問題の改善・解決に取り組むと同時に、地域の精神科医療の質向上と、患者様や地域の皆様に信頼される病院を目指し、病院長をはじめとして、全職員一丸となって邁進して参りたいと考えております。

病院機能
第三者評価とは?

『医療機能評価事業の概要』

財団法人日本医療機能評価機構が行う医療機能評価事業は、書面審査と訪問審査の2段階で行われます。書面審査は、病院機能の現況調査と自己評価調査で構成されています。

現況調査では、経営指標、施設の基本情報などを明らかにします。自己評価では、病院理念と組織基盤、地域のニーズの反映、診療の質の確保、看護の適切な提供、患者の満足と安心、病院運営管理の合理性、種別に特有な機能(精神病院種別、長期療養病院種別)の各分野で用意された質問事項に答えます。

当病院の訪問審査では、4人の評価調査者(サーベイヤー)が訪問しました。選考して行われる書面審査の事項評価を基に、病院管理者や担当職員に質問・確認したり、また、各職場を巡回してその場で職員に質問等を行いました。

審査結果の報告書は、受審後6ヶ月後に受審病院に届けられることになっています。各評価項目別の5段階評価の結果、テーマごとの所見、改善を必要とする項目などが報告されます。また、総合評価がある程度の水準に達していれば、同時に認定証が交付されることになっています。認定証は5年間の有効期限で、5年後に再受審することになります。

<参考>

精神病院種別A………精神科医療を担うことを主たる役割としている病院のうち、施設・組織の規模が中規模または小規模の病院。

私達の理念

みんなのために

すべての人達に、分け隔てない最善の医療を提供するよう努め、
社会のニーズに応じて、自分達の出来る事を、実直に行っていきます。

あなたのために

利用者本位を基盤とした、こころ暖かな医療環境と
安心して受けられる安全な医療の提供に努めます。

わたしのために

自分達の仕事に誇りと責任を持ち、
自らに満足のいく仕事内容であるよう専心いたします。

[診療・ご利用案内]

精神科・神経科・内科・心療内科 **青南病院** ☎27-2016

- 受付時間 8:30~11:30 午後は予約診療となります。
土曜日午後・日曜日・祝祭日休診

医療機能評価認定

介護老人保健施設 **南山苑** ☎27-3027

- 入所及びショートステイ、デイケアなどお気軽にご相談ください。

精神障害者生活訓練施設
地域生活支援センター **青山荘** ☎27-6638

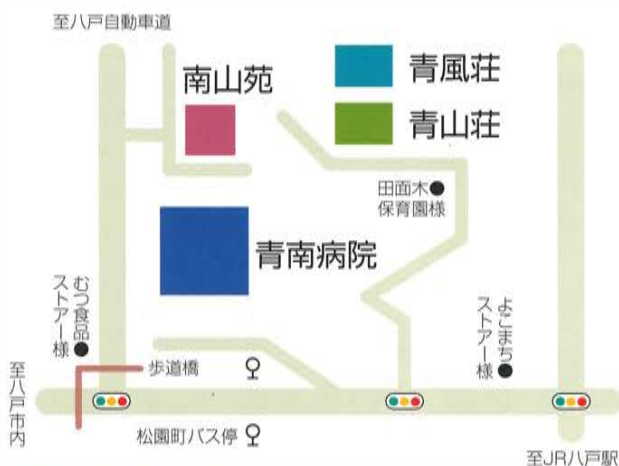
- 自立・社会復帰・社会参加のお手伝いをいたします。生活支援センターは、夜21時までご利用できます。電話相談は24時間対応いたします。

精神障害者福祉ホーム **青風荘** ☎27-7658

- 入院の必要性はなく、住居の問題や少々の身辺自立に問題ある精神障害者が対象になります。お気軽にご相談ください。

訪問看護ステーション **五福** ☎41-1622

- 営業時間 月~金曜日 8:30~17:30
- 営業日・営業時間外の訪問についてもご相談に応じます。
- 24時間体制で看護相談に応じます。



《交通アクセス》東北本線八戸駅よりバス約6分、八戸ICより車約1分

意欲のある職員を募集しています。



発行者/医療法人青仁会
千葉 潜

発行日/平成15年1月20日